



7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9

義理記卷之四 目錄

よりやもよりつひひめの方事
義理をひれ付まうのりりぬよす
みあそのか乃事
虫作傍上海乃事
トヒミヤコダノモ
大ねうせん乃事

義理記卷之四

よきとよきのつむじめんのす

九郎はゆう——うま——ぬのはくふつみのあひお湯乃宿
え乃伊乃ゆ人三所はゆうひまもりそそくらんとくを
そはくくひまとやとせられりく佐藤あきとほうん
とて寛ぐるくとくとくゆあう——そきよけむらま老ふ
六十歳もくらみとくとくをひきひくらんねうげくな
あれのくへくと本音よ活くとくまくぬうひのみり
き二らんきりりうりうりうがなちのみとくうひてゆ
のまうそりうれ全たかひつけひかつづくぞれゑの子
麻等あまのりそ——てあらわいとをたてゆを第一え
すみ出ゆけるをあきよ白あすよよてねも——まくい



を誰もて後うせりひひそがふ志川石とくつかうり
まつづくとづくとづくとづくとづくとづくとづく
さわしもやうすせゆえもうとづく男のりあそぶく
ちんじやうぢるうあうぢら八うまきひくほきふむ
さにすそうの鐘れすそつねどのおうる所まちうほ
乃み教うふせふくせびくうてぬくひふま大中黒
ハチモヒキ筋乃ち指てくろまるのぬくくくあ
スノホシカあゆせいてくうとくうとくうもあうめ
されてひじくものゑうわうよくまふらひーりを
年奥州下ト向仕ひて井はひげうのほじうんばやう
取扱と日よつとくもせまーてひげんさくよ入てまひ
久也和子さんあねもやりば深太良にてをほ見え

ますまくさうと馬すりこんてゆりほりうしの
め代を信友三郎がすり出でまいたひきや奈第一町
けうじゆせうじゆじゆじゆじゆじゆじゆじゆ
山とアトリ、まけとのきざんあくふきくわん
そとおもいりりの今なきこと乃からふすまくあまそ
ゆくあまきへおもくあくくへんさんざんとのりく
を深志高屋くまう洋内一一小はせとや洋内
一と大よりあらひつづきありのよさとうニル四四
赤りせば三吉あまきらニまめつ縫てあうれくまくね
ほちんとすも大まく百八十ひまくらとあれいうれ
うちをハケ團八たまやうかみのとせだらととのしくも
さうもよてうめりうすけとおひゆゆをだくみ

一木ノ木ノ作のものもあきつもよそおけりる
浦さうーもつふら波めみて臺よきをゆとくとく
してまくのまくす07あまつてそおもーりううた
とれどけとみ志きつと去わの力をあくえすそば
られするそれをくくとせやせらうく活け
ほくとくひとをよしむすせりとらまりる



まけのほらうしとほくくせゆうんとまう波
みをじせりりりゆらうしもそのひろをとくねせ
とそりゆるこむかむせひよたひよあくわれむく
ほとなみてのちまけのみなまくとおどるてねとめ
乃ぬよおくれまきてうれのうとぼゆくを伏義ひりす
ようせざうすおとくは聞かずまうりしゆゆうとせ
新約つけにゆまのきめられしとよりて降夏乃
もいそよまでいくほうてうよ三面こくへあくら
ふきうせぬあうてひひくほとよあうをはたり
ひぐりをつきうふうけた下もとてひひくやまおや
つ飛たふりやますひきやうとひくとねの
わときひりそとらあるすののりひは事ナニ津

くくらうひへひえゆうんくく大切とく
ゆりひくらうくらうハケみんく成りめじて
ゆくともみか他人なりもめん一古事とす合れ人も
くのが平家ナウアヒトヒトヒトヒトヒトヒト
やもうよもけとすりたまふらんこれりんもよもも
すももく平家れ事のと思ひ又あら呵をいさの
付多ひ不きもやや思くと色も一人立ちもうと色自
立すくみゆくも東園ゆげうな代くくん上せんと
もまたうくらやまき先せき舟地人と上せんとせすれ
をひこそれもうれひくソド津轡とまうけくい
をも敵方馬ノツミのりまつをうせゆくひまうやうす

「ううん、一月へよううりせしうハ懸の二三年
乃くうさんよひあうハ城河せあられ」しよ多那
わろ下されてぬせいそなりてうりや河たもと
おうくうまをいもくとさもあてまうもやうれゆ
おうとあせハまんちうづはねかくのうあそ今
まじいきれあらくゆくと小ハまんぐううのうし
まくあめうとまきてやんいととりて發てたる
ねうすやうりうれおうおんすはおぞくやうぬ
乃せうたひよひひうり鐵よたひととききりて
奥州に是東がまよて二百金縄つてくふられける汝汝
して勝つらくんもまニ子すまつてくりやんうもセ
までハまんねと一月よりてほせよおつうがと

「色絵ひりううれ時乃はあくろもとうとを済むと
宿もあくせううんもりうてううれよぬううてまあふ
ものちも画とあとの「くま」とせんそりうちと
すくさほううんれつまうばとやをめんともがゆ
先されをやほ日ひもぬもくわあうてしおのゆのとあ
をとなまきとかく「絵ひりはさう」とく乃はせ
事もなくしてたりととあやられりうれとく
大ぶかなたうひ乃ひのうちとくわくみれ神と
そねううれりうふくまをほりうしよくれりう
モヤセ乃ひくとくうせう乃ひ内内ノくままで山
神よひひ一うせまのうまくまよりま十六まで

御心とくゆきと侍をまきやこすひ
うり内をひけまつてんほけくはすあまめひ
たあふうを下つてひてもとみひひげ
うほひりんのよあくらあ魚をもせあり今を君と
えまりくとこゆばよのほりんすへいり
してまううしゆりれちとこゆうのう
まうせひまきとふまうすらうへそりくねを
ふまうひあうきてをひつまうもあると又がま
所がうのひりくまうあられられらうけほり
してある軍までよまひり

義理平家討ひ乃やりほふ事

ほひうーとゆきに二年おとめしてゑへあとゆ

ねー一ノ下ふハ鷹乃人ハくふれらうとく
うれうけ者とくふは計ノアヒリとせあわろは
て大ぬじあ内大臣ひりり文子ほりくら三十
人をくとて上海ーのうち乃けんざんよへそは
あゆう元暦元年おうしんひいしめ位せうより
ゆふをま乃判處ひのきの文子をくとてゑあく
つまゆひとく

うらはるやけりそもうくもんとおのとう大臣又文子
をすくしてああもすりけりせなひくひなれま
そりくほほうらひはもうくもんぬもよ野ひとゆ
もさもうちゆるすよてひうれ儀つふとやーふ一の
若乃合戰よしやうの三郎すあれかニ位代ゆねいければ
車と二のえりほよ小後てひともくもくと大よりうと
おひて三河とのき太房の事よとよあき義禮うて
よじうりこもつがとの御ふくよ人のきのくふるまひ
うれよきとうだんせひひとうとくときかくくひよ
とづれびくうてうとくとくとくもくよもくわ
まわのひーしううれうへをひけばおなくで園よりあ
まもううみだらん天よ二の乃口比よ二人乃王



方々り魚を手のちを二人のへやうくんやうんを
うんやねやくひひーーうのうみてまつうの蓮老一
だとなれぬねりくさやも圓波のなんとわうきをぬか
もとばけ事鳥乃もーー一人たふの合戰小
も城もぬりうへ城うり平家二十万金縁なりみかこも
六歳子家藤なり城をぬざい玉てよせてとあ勝ト
のうきのせうふとる志ぬふあきもとやうを大せい
薬肉者よきてとみをぬいんなどのまのやもなりた
やとくおれつねとみをぬいとさりーー頃ひゑとうと
そぞうけどきのものとひづくきうしきとぬせい
トテやくーるへあはれ井伊ノおとーのふ事も
やんぬれまきひそ今度ハーベルヒーとよ大風まで

う三あひあくとてゆひかよつまやうもなうと
あとくねみそくとてとせまくうううふみすとま
とてとくがりくとくらなくハーベの城へ打とせて平
家数万を成ねられとくたんかうとけめりくとまて
もとけ井かよとけとみせ殆りす。しりがぬすもあま箱
れんのんりつてうあうつぶとて東園西ふのほの
とくとくうすいわよまをか野びとく。もんかとく人
うとれもとまく人とくふとけとけとけとくひとく
とくとくうじとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

つよじく山津のちうのほともきみ方ゆくはほうすれ
をまうせとみほは子孫へせずといふりんもん
又は一朝とやてもぬとうは在ほんせやーありと君
はうとえめのてうらううやるをりうつ
たゞいあうなれと一室とおきてありもうらもん
事をせいくのあうれくとしろせ九あうつまう
なれもぬるうれて務るア同善セテ後ひてとを
却下されりた大な小名あ事ばまで今のゆらやうハ
たすふまたまよ事もあわなしきやもけじだり
さの海たとくのうれや下さうとくろア下ん乃
つよたつひよきれうけあくうひてえりすとども

終ひもうれいあんよつやうアテんりんやもとせ
よきりくのじとらんこヤケリム合せんとやうを
られりよもさかうらけあまなよば高ぶよゆてつ
そくやまぬよふもやうと書てまつせあくは
うへをととおらうみとあくあくもつうとくう
うりうり判友ととあくふとくせううと判友せん
れ事をかきなれととすひく二位とのくくまと
あひうなじまうんとくうおとくくまともあくう
うのねんもやうアトとなむれすううと思ひほ
アトこうんばたよとけられううとをねくろ方
らうもあき月わづれ是を務るめうさうりんこそん

在れ西國にてゆく接ひが爲りとめのまことこれたを
あとさしてあととすりぬゆきとこうくましりへやも
うひてなまづまくするを二位の河越の事なりて
九兵の人のきよよくまくよせとみこさんと内
こゝにびたりといあく乃まうひせ修うねざれ
あふえふをせびつひくと想ふとくわざれもう
あいよされけるを何事一まとそくきのほらやう
とくむかづかふまとそくはすゆくわらうをあろ
しきてはやうふせまとい老とくくすんとゆ
めれまきてはゆひこゑよかくそくにゆくくひ他人
おやとつあらきう人せやますくそだくきりの理
あるもまことにても仍りされす又とけ山とめて

おられるを河あくかすく人をそくまほひとて
うれいしやうされをとてとみまさんとゆるまひは
九兵のまくとくまやうはいゆゆくらむりひ
落ひひて若きのりりまをひそく併重緩のあくと
たてまううんとゆやうされあれともそく山あらひよ
くくぬんとゆされりうをくちやうをしきり
他乃人ともすわんおがさう乃ゆ蟻やも人乃みどり我函
と覗えど絶くくわれられとくれりとくれりへた人
ヤキ一灯ん乃後うもきてゆく行つをれくものすり
つきうさんげんかまう年才乃らうとすくはえせば
ゆとやれうひほうみゆせ九閨てもまのうさ

あひてうさんとそりておけりよとすりしま
りすうのあくとそんしやうのひまでねよまり
せのひてゑれりへゆこすあくせりひひてほ
うろはぬもうさせめひてほしほとのほあくろ
やときももゆ事うはつぶせもくろじうらな
やすくうきり二位とのひととむりに
うるやまくせせせせせせせせせせせせ
よき事とくとくやもんをゆもくぬさる
ひく教通はましやうきくせんしられされ
う経法をやうのしなうをうくうくうく
ゆづきれり

ああくはやゆれ事

みれりとくずほのゆそれなうヤー上ひいとあや
清代家のうれ一川ふえうれちよくせんせほほひ
くしてうてまほくくすけくきんのんちとよくと
すくまんちやうかこあはるつまとくわうと
のやうよこきのんりしよよとくとひんと
こうとくとくせらううつひれうきなふとくと
ばよやうあやまちなうとくとくとくとくと
とくふゆるかわひとびがくこうれいふとくと
ちやのじゆぬとくとくとくとくとくとくと
うれさううひういとくとくとくとくとくと
よ數日旅れれ山晴うあうてかくとくとくと
うしゆまううううううううううううううう

たもとゆくうんまめでじかくおふねたうのまこま
あらんせ乃こうゆんとうするかくうきうのうの
てうこもうぬうしやうじだんを筋もむびをだき
のんうえりれひだんをやわうりう縦のんうあひ
れんとたれんやうとあうとよすやかまくに小
ようちとり画せうもうつすとんたにもうぬと文ぬよ
うひづくもくれ時萬以をとてこゆうハとの涉たう
ひのあひくまな子せりうてものぬううのうち
よへアのれく大和ハくふうくがちやつすおもしりき
ちのあひのぞ一匁け時あんよのなりひいぢうきす
ひなみいのちもうんをとくくとくとくおけりひくきい
なれちのあひのまをまくよふまくよふ

虫をくあくはすとつむとてやみん面をやうらふく
一せうかうのきやもゆうあひだらまうすあゆん
あゆくして平家の一そくついさうれためよとあせと
ひくまの本尊とけうどらうまくはるひとせあ
かくぬりしやうあうあうじきをうくうらうしせふ
小もしめおじらうりてゆこまたためよいのう所
わろやさん事とつをまことわうきをまんくく
大あよ風波乃はんとおのき方とひておふくわく
事とつこまよとくまうとけいくわくまくわく
ゆくうのとだまきうらうとまくとくまく
とけくわすりがきとくはくうとあれりまくば
まくわをせまく年まのいのくうとくわとく

すれ外を他事にてお出でらるゝつての又仕ばせ
おぬさんのお古家のてうとよくおふすりあき
とうんちうととりへせ今ひうきをぬくだけまき
なり佛さん乃是まきすあすもりうてつーうそと
たうちんあまきうようく法もとよーやのこまうかう
ゆん乃はうく所もつゞく野む所内しもまゐ
まうせひにわし國中のちかのさんまうやううと
しやうしゆせろーまほて教通れまやううと
うきとすとし色とせねもつてはゆめんなりそれ
わうふを教ふりわがそひまうとうけのうるうす
あひくろ他よりうをひとゑよふくまうたひ
乃はとひとゆまひれとうくひこくゆえよぢう

せああひげとめくとてあやまうなまひゆとゆう
うれほうめんううつもとやくさんによい
家門よきよひゑいとくなく子孫かげたるよれて
辛まだくひがわえ一朝乃あんねいとまよよ
しよげくますうつーかうせじあくせーめ

ひひれもん義理と相違

元暦二年六月又日

うん上 いからゆく八ねへ

源義理

あまびふめりて二位をけめありてひが乃女
をうちらちうてくわくまでがまきそなりされけのね
「うとうくわれそんれもうくわんじをかよ院乃
所々きよくてえやうとのこよもさけいよもき
くもきのめりとまほもよくひり義事わふを
れりて秋とくれそ代けめわもなりよりをねる
つみとくわやまとす」とともうちくわス
「二位とのくもとわねもりれり」
虫作陽
二ういき乃せきそもせせとめされりくわく
ゑよぬくわくおもくおもくあてとさくうめされ
うむけとねもうありてひが乃女もううぬくわく



あきをとすす西ゆへトワアまれ源太河サテとさ
スアケミモセヤタシレラララララララララララ
リトナララララララララララララララララララ
ケ山ヨハタレモアモトアキト東モ九郎の三ヤコヨ
メテウシハタモトヨクタマアアアアアアアア
スアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアア
アアアアアアアアア
アアアアアアア
アアアアア
アアアア
アアア
アア
ア
ア

アアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアア
アアアアアアアアア
アアアアアアア
アアアア
アア
ア
ア

めふ小をうとあつてありこゆうひきかうへよす
ときの多ひりあまきと大和ばせんと西のんとくに
うせてひゆうへとからだきとちよどりもつてゆくの
よもやうかうきとれどきにこりつるえうとくと
うちしきうたやまくくひとねくまうとせらう
一月わざれむりうてひやア九歳りくひとゆう
ぬえまいりせよとやがせうきけるをあうけなくそま
あしりうのちりうとめてあもうろさ八老とせさ
のとよせよくそほられりうむくせんがまたせじれ
そあがよせ食ひたそつみりくきをまひおらひす
まそおうちノキんせ思ひあれア太陽をせんなくい
ときのよせいはくとまようひいもんせやーさせいを

りつぼとあううとのえを百人ひうんとそ
きぬうくなとそせやとくれぐるとさなりひううを
太陽とつれひやうなともとあふきたらんとくいん
ううととくわんせんとくわんせんとくまばあも
ういきとせりれういたをくなとくわんとくな
てぬうく下りとけいじりこくらよあんしゆくは
ひまてえのうとくうて二ひくうとくうと
らううううひくうりふとくうとくうと
くううううとくううとくうとくうとくうと
のやうこううり又かふうとくうてのえしんこくうと
ヤーをもれあとくうとくうとくうとくうとくうとくうと

物とあくまどりひあまくさのアラウエトロ者
をもろましいのちあうてもうとしすりふ
てニシヒトをうももうもれもりあくひをま乃
せよれもせそれりひだとうセアリモテラん
りきじものとあくまねき人のあくらもきぬくなり
せさもりともり印こふ者なれもうちきりせての京
ばかりひてへそをかきふまうもろねれともも
てみれをやうふとアラウエトロ
せほうしよそとくんかしてばほきひつとくしき
すむゆりみよしほあ御馬とえにあひ入りふまうひ
ほほまきうひのスイツキのくあも小ほくみあめ
くまのくもやねとくめたがつけらのぬくうとの

乃吉田判官云々あくは頃をひて九千三歳までうだ
くと立ちもねさざるうひそくよそつまたりる
とくあく乃一のうやこヤセウチリクチキアハア
ナリチャカシの源太郎くそてもろくろけりうる
自ああはりびニヒムよろくゆうきそうひま
くらあきわもととつあんめとふつあうちを教とほ
スアヒキをうほくソア九日こやようやうへばく
つまくはれ07とそと乃うやかはるとよてはれを
う一十九十三ふニヨヨヨケてあくまくぬりやうす
ひまくらうとてうへアトリうきねんれふちとせめきて
せりつはうちりこまてあのとうやしとくくまふうの

君ノ事トシテ見んよ
はうらみあれの國乃近人
よゑのりん三とりよおのるニテモキヤウア
ちんが乃りとアうじひけくうやりつもねをぢ
道ふみてうのむりを乃くのゆそぞれ川え
ゆきわらまき人乃くのゆくわらまく見え
あらしくあまうてとえびてりうくひき
やうんとせんぢんとくはーてはらんばみきニ
うひくう乃玉作こえびてせきうはんたせじまと
くまのぬうてとをやくせんとくねやせりひめ
すううくまくらうぬとつよだまうまのせんとくひくま
おふせまくらうぬとつよだまうまのせんとくひくま
うかくまくらうぬとつよだまうまのせんとくひくま

てぬめとすりてともうやせおりひてまらまよ
ありの「もぐれきもせ乃ものぞもお家れもうえん
あら乃小説アリウツモカモサクセシ同あねすあら
くよダム人うちえたねいつみてとの閑スナミセ
ヤヘソトヒツカムコハクハニタハト
さとみヒヤケリハドスル鷹は乃ヨヒタハト
モコモアキツクホの一朝乃ソヤヤキアヤマリ
乍んうゆ中ヨ奈ヘキキテカチシテ日乃シタ
セ教ホミキミキヤカチラハラシモカチモカ
アヒト今一人ウツヒリツモア
やうつね一ノモアミンモアシモアヒタモカツ
一人の物トツツリヒリモアヒタモカツ

里よりあらわしをきゆるをかたくりとの事
もたらんまでそんをきふれくまでもい
うのしらんとやうゆふとやうれし源三
あまとれどれらりあやうてゆくよ
きうられをむらたひきのうみぬれま
すけきてまいかやうてゆのわゆくふんと
さいとうがゆなとくとめざれて向みの
人とまくもやひそあふうまくとくとめざ
らうくみのとうちあせよみかづのほ
りとくもつておかられひいろともせんく
けり



見たされとれどわうもあくよをゆくふをよす
けりまう色ますやうにまであめうしばやうも
くもんとあらざるをうそびせうと五さくもあひ
とうんさうなりはむかひてやさこひともん
すおゆうをあきうちくまんとうよくしゆくまの
をきやうとのもさひとせんうとまくねをやうて
又くきとくらうのからんとれもさいきんう
つゆうりとふ来てうとのとさせいがやうとまく
りよきとれうへうひろうなうまつとまうくつやと
もあくとうづきすめとまうきとねがきれうるえ
たあくとさうとさうとあくもよのうの小波かねてえれ
みれ馬とくわうしすもあらひかうりうけ

あふ六十人うごぬて月かきとひゆうちわ
志りゆ玉作陽けうるそつまそ升らる要たゆ
をくわせかくめらうじもとりひあまくわせらん
トアがくやうそよトクとひくまくま
野えんきいけのまづくひりくま事をひもわやま
さへせんとひりんとみひもくよみちくま
風のくちよてひのひこ今夜をあつてつりめん
とほめうくくまふひひくまつり子をひ老
きんとひそを仕立ひおうかにけいひ
まうらまひがうやくはれとひれへれれへれれ
てあひよとヤ判友はくわをまうひもひ
てあひよとモモとモモをまうひのりとモ大弓

りうけでともすよもよまつみがひつむする事
をほむんのれめうすすのくわきほとひゆく
ちんからやうかうこうとするうとまつむとく
ぬほりつひうせうううがとをあがくれくら高
所うつをうひもんとくるうあひの事とまくはく
うをまてきれめうしてとうをうさりうじうは
あうきら有のとよとゆくとよをぬりうくうちふ
人をなくやあくらんとおりひてありたりまくくまん
ゆうあき源三とりよ乃きものとけうけにまきやめき
うせ幸アリそこうひてめぐらまきわひくそれ
とまくきてゆまかとちくほむんびりひくとせ

やてまづきとねあんあむく印こもつてうけうな
もむひかとむづんけのうせうよみうはもん
事とみて居くつてたつまようひとあまくの
きとつまふをせうざれけきと無くへりまつてそ
てまうめくらうつあひもんせひはれのうへ
くううもせうのよろひみまいふととあひ
やくふもんのたうらもひてもうくく方ひひくせう
きうちりうたうらとせじきよめりけしよ一人も
ううううてこらうややきそうちへうるげくねうち
ゑーんがまもまううらよきてさんううゆうとせう
をねまとさうやうらあきてみきをううとせうやのせハ
チ人ゆきくつうせうておうちひやうらやうす

うるよをしんあひれりくばほのせりやとまき
たひとよりすかとあしてこさうぬくよこむよ
ひとせうろひかうとすり所せつけてりまれてひと
ゆくえまげうれのうとさとくとせからみりつよけ
きそりつせう浦たいくくひりとまくやうりのみへ
きて園あらふとせりとやまとるつまよ今までおうく
ありひろうのゆゑとくもうとらひづねとさせさ
いと乃軒とすらとくもう無事いとせりとをきく
のゆきうりとてあうそれつえぬよないちくせく
せよばとうてりわだれはまのせもりあとうなび
てせき思ひまくもうちのりしするてのりれせとき
りううんとて軒とくはなりすやつてありはさんと
あく

タリとくともまゆうひとをうつとよりすあう
くひよくゆうせうせんとりひけすとくりゆひ
のあふう人今まてめりほじまふくをきてがふよ
きくうやのまちをとせ生作もたらうなれせも無事
ひふたそられてもんれまくをそてつてふうりとく
かともとじ悪そとんのまう馬ひよせたうと無事
とき成つまくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

もうとくしめかとひきのひゆきしよいてひうへ
まひてとあばうりくめて事へんふううる
うとさらん一やうりう御うそうとくくね乃はたに
くきし不くちのをまひまうぬぬぬまやうまうひ
とくとてこひのんちよてひわひとまのうじは
とくろすけほけひきなはひ道すれうえぞ
ひひてありてひ方の判官とのれもうつむけ井戸
の井戸ひとくまくりうてうゑうよてみせきゆめ
くくうとしうきう事よそんかうりんとそ
ひうらううれうきうよてりくらせよそぬうんうん
ううとさらんしきくひそんうううううう
うきうまことゆうよそぬううううう



とくとくのあまさをからなうくまびきんあひ不
くうくうぬふせやうとくはあれそやうの人一人
もめきますほくゆり三川れはやたれあひとさん
くくわらくてほあひくあき座りはせうくの
くしてほされとそ人乃ヤアひりん判處なんらのとも
をよも船日をやうとを大切にまでわんすうそ
とひひりつうそれとやあくそふとゆがうれどり
とさうやうイ人のじたれとやはきゆりし小舟ひて
をよもくまくまくらんしむるふくみぬめうしよ
ゆ里はひくまくやうはりふみもんとやうれどり
くまくおもひきじとうけだたりすとひ色をよくく
れやうとうげとて遊野のあまうかくせ三海り

八幡まつわごを一まつもくまよ壁すれきり下ニ敷
きやさう六あんよ切さめよとてやうそのまを山うへ
れとそゆうまれぬとさゆううれてむきぬうとあく
ううてくうもやうもうとらんもうもゆうゆくめこ
とひととくすすまえねをとめりひるややをりを
まそこよひよせをきかうふきまうやうやうととのく
ひめきくらむうくまん八面ややうとま差所りめ
ううとまかひととくりうくまん八面ややうやうをせう事
ううとまかひととくりうくまん八面ややうやうをせう事
ちんあうるくひとヤセをとうくをひづくぬとひそ
なふううあうんせとものかけうそをせうれり
ざりなううこよひうらとくた事いあ一やアキモ

ここにひかふ事ものゝもゝ義理よま
せよまふらひやうみれしくをきこゆべとされ
きと乃しくそあくそよをうつをうるまうくもんを
よひれさりそりよゑじそりのくせらあもんとくをゆ
ぬあうれしわ判官もあらうと云あうひきのとたまき
たちらうしくとくものとくいほとの大事とむ
かううりやうようちとひゆうとくとひくぬ事
そとてもそとくのとくさうをゆくとよを行うをして
きひまとえすりけたとゆきてみうりうりたくりう
うふとめどとああひきひんたすとふいてんとんが
たうちへてれくよてゑをまつてはんとそひく
りうねふとくうとむをあまきとくくうりうをん

うのなまきとやうれくとあくらんうそれ
そひみきんとくとくをあき川せうししつううきん
ともううくとくせうらうりうれせもみまうよつうくせう
うれてうりんまくみそれちううのうやうんとれと
ゆれとそあかりとそえまうよううとこうせう
百萬うううのゆんちみ十人めのううひきやうの
あんまうしわううて十月ナセ日ハナうかあくらうう
か六でナヤリムようよせうううううのほ三
とくくやとへつをうじゆううくとくうとくうのほ三
とくようをこくひとれりうけの事とあくまうきや
金とくへゆまとだうさとう四赤りせん三あじろ町だる
さんかのりとをゆまくはうねの物と一入れかり川

力やとくひて月うれし夜もよまうした月うれ
そひひうるまくほんもも夜をかくれまくさうも
して东あともくもくとやがひりうくれまくう
所一よせときとくくわざれせはうちよそ人ねやも
そすきのりてみばけのものよかくろえ判賣みと
ひまうこやまりてまくよせくらやをやむせんこ
もとまわりすりひん川ぬみとあもておせせり
りくはくよあけうれらをあくくとださかよ
すすと乃のくもてまよきてふうとやせきあつれ
せかうくわほとけしつぬねやけりゆふく五作
じよせくらめんもなまうあきえれとせやせら
きりうまうひ一人おなよひりいとぬね

みかくややをうるまくひゆとやとまくまくの
うんううまでとややこもなまくわゆうあく
せうくらけりとめくりてとすをふきよしたけく
なりまくられまづきとせされりきよなしめんく
やくよじこまくとそひひりうちくまづきやく
されせはくらまくねくわされりくなくよい
是をくわせをくわせにけりくよきとやうとく
きくとくやくのまくとあらうとえりうれあくら
まくとくせあくまくのまくと馬おけりていてこ
けりくわせとくとくしたもーとびうひ大ひくわや
のひくわきよさのあわがうかくまくとまてなまく

ううと所せ間へりもとあてをもんてゆううかち
りれほてひのひこす人のもつゝのゆもやひうる
よきりつてゆよこゆせうけしもへてつされ
をぬふをとせはもとあうてまくらうくつまきの上
ナ四うくふあらをとくまれらへゆまきゆとせり
とそくてそをきこくありぬまのやせおりひくとせれ
そそくよだあてきいややまうしおとげくやうう
けううららやうくとて大夜よそもうりがりうト
もかきあらうけりうれざむとどもまさうゆもれ
とくぬゆをそとく事やうゆとあさむくほと乃
上ゆきりゆんづうすたゆうくとそいげくわうあ
まくわゆまくわひく門くとくよびうひきくまく

ハおとこうし戸をひれひくとくわくれまく
そほ月うのまくめまくらうつよみのほくもまく
くとくとくらうぬとまくでゆよりゆうみとまくあ
はがくひきはせてやつまつやくわくはめひまくめ
まくくおいかとさうまくじにけくとくらうとくふ
ちえいねくやまとふ二人う房ようり本作うけけ
とやれりひくまくとくふたりくわくこゆまく
くまくとくはくひくまくをすうとてくひられ
のよあゆゆせよきをゆりくもこくひひのちぬうんを
れり一のうけくとくをすくひひのちぬうんを
ひやくひわくやくをすくきくふとさくう一や
あんじなむまくとくのゆたひまくとゆる

されどあてまへまらよ事もあつや思ひどとをす
判官たうろと云ひふかまんあくまんハくゆうせて
あうちあくまのひくれよひゆくのうろひくを
ゆくわくまくまくがしれふくのとくああふく
けくまなたちもひてまつまくハくやおひてもまくまく
のまくまくゆきりひくひくよせめでたすくすく
つままりかくまくまくまんたとくあく



えうしたるより下を下はふけらうめりもと
よのく今來のまへりゆくゆかうんたとヤクアキ
ちやう年サニヨモキヤれももももものをもつてきめと
そドリスるヤさあきとおきてやまとす。思ひに
せひ乃ヨモトウホラヒナリテ十三ノムヒにて
せひとつまくさんアのらまのくらうらとモよ
ひやうとつまくさんアのらまのくらうらとモよ
せひてほといじはすうひづれうりて持まくさんたゆ
せひとつまくさんアのらまのくらうらとモよ
らゆヒツキトムヌとゆゆ人てまつらうよ
てまくさんアのゆとゆゆ人てゆゆ人てまつら
いてまくさんアのゆとゆゆ人てゆゆ人てまつ
ひことねんくよきるひまゆひもがりとまくの

うきぬよれにまくらはなまき玉そり
まふわをつまあるとそれまでかくまく
されやまとせせせせせせせせせせ
乃くらすをあくさのそまほらんまほひがり
すりとまきちよそなりくとわくとめふくう
えんひとヤ大事のてまほひけやねやされ
さうさんへよせとれゆくをもととヤセやまや
いそあひれとそのひひけりすよともあまきと
とくとくとたふみとくそゆくせきりくわれせ
判費もひりてきりす玉作わひくなくけり
もよやくもじりきやものくわくわくもじり
六てまめあくまとよすや
ちまくらうこまひをね

ややさんおつねうれぬうやまとをせせかめあるそ
のうとのくじこりがけう月めくらでう色らもや
思ひにきくとくとすりばくや海なりひやう
のうみくまえす大うちもくとくわづみてたうあ
もくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
もんをくきとれお所さくまくらとくりひて小門
もとさもとらはしき金ひうわよとくとくとく
ひまのあくと六一のうんとくハシ
うやつやてきれよせうけくわくとくとくとく
をよゆうりとまとみまとあくろも打こくとく
ふれさんけくや東へを东のや門ふはとよりてえま
えうくふまんたけりうじはひまくとくとく

ひつを落すと身も心もあわやどや
まろなりにこもるよくりも人のやうにま
たとつてえもつゆのひゆりとつゆやまと事にて
まんざらかとせしよ色ひきとくくわが
りゆくとめうやとだれのうそえ
えもんげくし乃うちひゑうよてそとくう
生作めりうろくはるううてえゆもあて馬お
よせあまうとくはりやく一ときほきがふのれみのら
てあやまちざれひゆとゆがさえみまふ
まひけあくすくわうなぐくそくとめく思ひ
てあやもせずいうえすう事もありとだれりや
まえもくみゆくらぬよてとのまよとぬい

てこれうなづからでまくあがとて度々くらのつまゆ
も山おのをうちうらやくもんくちやうるやう
すもかくらぬんうとれりひそとくともあやめられた
まくのよきうちのし日かまくとくあまく、やねの
法度うきじくまのとあくとアソセうらやく
さくとうのじさー陽極んきいとて判處れは肉う
一人面子八老うて山うそやりうとくしりうあ
かうししたをぬきうれうとくうよれとくうわ
されうるきうれとくせつふううひとくう
とくめりやつまとう城とたうぬきとをやりう
とくくまくされへとくめよせられううう無事とく
すアケラ事とくうのうきうとてほとくうとく

とくまほをてあうなくまやううとくんくまうとく
内ひのめとびけうめゆううやとうすくとく
あくくうううやもーとくやうとくうとくうと
ゆうとくれうれうれうれうれうれうれう
スー舞ひりひてほうしてうんうんふいきほりうん
ヤツルうんとみくんとみううもんけひうやうなう
人ううなうきまうんたぬうりうとせう歌ううう
ふうれやもりくさうをほきあまれとー大ーやう
うんをほんすまかうういきとをまうんのめよきとせ
とくやうとくれうるれうんたやうううとくめよきとせ
きんちきてアリうもおでうとのよおうういとくうとく
うちの人うもかえうういきうう人をがまう今やま

らぬとぞをゆるをじりとよまくとせよ
くさりの家よむくとあーふくとくはきあや
とく内一によきてひうとうそもうくよしつのくら
やもととしめとてあくアコモリもせ来たとさ
かどいとゆかくこりてさんく小せじ



のこのおひの八郎左佐作りせりれ中アノアケ入てくひ
ニ川いあとと二人してりんさんよりうりせの三郎い
けらうと二人くひ三つをくまうすもうめ升八六高ひ
せんの平は赤二人うちてまいろつきう詰けめと
ていけとくわくとくわくひくよそありうれゆ
すもゆくまれめりれなりーもまた乃源二とと
めちまうひよをゆぬちんとてきやうやくかみをりゆ
うかりうくよのアリくさくとくくとせあうてゑ
二人うくひ五てま巻陽ぬ匂けんと入そひく
せりひてスヽくされらんかつてりるうじうりいり
やよくひかわゆ乃がくせあてそりきけふもあくも
矢とうちあきてひくしくせんくううよもよ

そよづうけひくらばめふほえりつふもうくまう
もんをあつらんせうのきやもあつこくめてたまうは
わくとくはとや一あらくらあらうせまうくら生てすふ
事うとこなをけねもとみ源こよてひたすり八は
めよてつたとくまうせみゆうくまうくまうくまう
くへにヤスレモ判友みまくまくおひてあくまうあふ
れほのて火とせもアリあきてはうんとまく黒
いものやハセヒトシテシテアリといたてられてう
ゆうもくろもくくくくくりうすんこせゆうそくれあ
まくつまくとくよやアはぬとくよぬまくとく
をせりとくまくこまくはくわゆんとゆうよまく
ちがうくわやまとくまくはくわやアカクイりとく

はるかに一月をつぶす事一月乃至
日よりひげふと細くしてほほよじせひ
たゆへをりぬをよきりようちうがわまち
月のとのせあらうくさりうりうからんぬ
ゆくやくのを一月をとすりむけりう事
そこもやくをがふすとやけうもさぬよとりひづれ
ともせ事もきよとくまくうとめよとくをき
れはひるそりんぬはひこのうへととよくもゆ
事はう思ひをきはつかなれざのまことへけるれじ
おやうてゆ老のあれ八色くわうとみうとをいは
すと多乃くわそくきとゆーのひくあもくや
てひひよ下へうむ月えふうとからてくうをゆ

うえきてひもくうみひりしすう事もうつみ
ぬくねかしてゆくきくねよがくよさんねもつひ
れやせとふすうたくとヤセとそれもう
やもくゆくはくくもすうとゆうとゆうと
よすうきーしすうとがーりうめうりとえ
もーうをよし乃だもとねんぬうとすくめくわく
めうもやうよやくひくひくうと二十ヌまでう努
ようりもくもくとまくとまくひくひく
きりうやうよとまくとまくとゆうれあれくせ
うせく二三十殊月うとくとヤセを裏たとく
ううやとくぬよとさめー一心い一人もあらずす
いのちかくわしうりうりうりうりうりうりう

うるまんたやうらきでまへしろをくわす
りまなうとれとほよぬひもよもつてのから
ふ事なれそりがうもとてだなまくももつてり
きてこれもれもれんきいあらやまやつてうれせき
てうれモーやまきふうひんきてそんてりそまん
たそうハれつと乃されと所せばまてりみよの
ハえんがまとあといてそむらあくまきあ
けりう馬かねりくもえひよいれ行きそらにえ
スをうまてひうをうちふまえもありよく寢小
起るをうるを誰せど人あらそきのちやくしやさ
ハ立めしやう年十九とみれつてあゆせじうは是
トうえしたよとてほとよかのめそーとわゆり

けんじまのそれとう色とておらけりとあまをまると
ておれうけうちうやうらかねりとせあうう馬のま
とうりきよをせめだううりもめせく一不まと
ゆせれやうなりたまふがたととくとわういてぢやう
ときうりうらううすアラ川とまうひきさのまぬよ
まうひあくもぬへひまもうとこよをあうれうらを
ておきをとまうひのうもおひときてまを一川もほき
そつうとまうひのうもおひときてまを一川もほき
けらすらうらううゆいつあうはられりうねんけい
まうんたふえととくれてやをうす思ひてけりと
まうううみかえのほえんよゆうまくめれうら
ハまくまの一まひうをたらうんけいととよく

筆と同本作りつゝといひかうのあおりりよ成らそや
けりあまきしよ書もあひもとてほとよかうねしよや
せりひりんじらぬあてくうおちりくまことなり下を
あうとてをもうけて大ぬさゆゑとモ内とえりつてし
せとうひまのさん川うりれめ八つゆくほくお
つゝぬまきしよりよてそひふたうけるびまあらへを
ととととせぬを主成なくわざをくうそれひうてう
めをありげに立作八た部と一函すつなふとくとやう
とあんしんをとくへうきあくひそれぢ極くとみく
我を太麻る節ととくれどいきそくはかうせんじゆ思ひ
くろんうれざいヤセまよせおりへきてくうひうる
められやーとや思ひりんうちじもやうけちうと

おでううりつまてうみて七十七ふうすまむおらてせ
まくにかううきのほのやりふくうぬとゆてれちゆく
前画をもうくんとくのほと一やう三のとをちまう
めくねくねくねくのちもくと判處乃だ所のす
とももあまきとくうぬとくうおとほてねへまや
つアなりてううのうりもうくうしむけなるおまや
れときせほとれとおとおとおとおとおとおと
きやうれ者とよあうあてもうくましのまゆひ一人
ものとらへとつりううおとおとおとおとおとおと
されてそうちやうう若とこもよりう大勝けりそ
せああくじよひまみひのひの大ぬおおままでま

せあうた本れうのろみそみけつまりうアヘリハ
めつもとさをうなひてがふやもあきあまば小町
すをまみゆせをあつまうくわこちの林あ
よく泊アキルんじうひ月りうおよよりて月
立ち見しのれとひたち移へれうらのまろう
泊ふきのまうくやう日りうくわ
せもたらうちらのまうくとよりとみまもやさうのけ
ともだりひりんまれう川ろくもと生てまく
きくろ転けひきわくひておきはひろげてにくいや
けうりくまえうくわ月りくきニゆくあくわり
くわくわきいもう三行んくわくれたけくうか
れたふかうみて町ゆく室アキラモテ町ゆく室ア

よもやまゆりのとせばひてうねけややがりひ
りんそもとくひまつりてひがきりとくのひうた
うまうらへりとげてあますおうとくうを矢され
ふこひまよひまてうへあてうら左作をはくとくとく
てま産湯子のさくわきけりうさくとくゆへく
してゆまとうくきうとうりだまのえ十人ほきてこそ
わくられけ

とてありてひよりあらず大夜よするを費ふん
すむせまひといつふやうもんまもやう
さくらもんしてあらわふされどすふよみだらう
うつみてつをまたぐるをすいりくせんがで
られけまくゆゑと比べつけておやうくりちと
おじいをほのばとじゆぢりかくらしとおし
じよや事のひつみてうゑすとあひせよおきて
とくしてゆかうをひつまくらせんよくくひ
所められくへどうりくをうくまくまゆのて玉
依きつうのまうりくやうてとくうづくくね
八たのとみよらめ大事のううらまつぶや
らんえれあれやうとそれじゆくとくとくとくらき



されもあらうとあくまでこりてあくまでもやぬ
うきてせし月一月とふきとてきよしなふうんつふ
とくきておでううつとひま牛蹊河のうのまわるよ
とせかせりさうみハ高向を帝を十九いほう乃
ス帝を二十三玉とまくまうとうらもうべれもうもの
やまくくまうのまくうねよあひてせきとあうして
えうくまんねうまうれまのうきひぬとヤキモ
トキモカウたのうくまうよまのうせううきのとゆきを
てきるくういあんがれとゆうざくれとまようひ
とまようわようとまよよりまひ乃ううそされ
きうそやけり

アツシホリの事

アツシホリの事もういて頃めかせよとてやうてう乃四
角もとまき大もやうとておへの不れとくけやうとを
たいアラタクレセラムシテヤナカレあれいひり
セ道めひきとれをこの國あつみのまよとせむふ
はりんをや下た八百石とをまと一チ金請とくもん
とくとつてすりとすりとすりうりヤ一月一日を主乃判
安三位とと角めやんをまうりりを義理食
とすてててててとめとだつとあひゆをきんじーてるわ
なとまうりんうあなり縫とてうきんじーてるわ
をやうとまれこなもぬとまうりかまく乃見
一位うほのすやあんどうとすりよのく行計

乃はあつてくまもとじがまのうぢりすうとあまを
ひちよきんあふうの乃きまちすうとくわくまつま
うとくうしーとくもとせぬ九圓はくまとく
もてまくらくらむかややそようれりるあまきよ
うくとも成てうしりくらくまわゆきくまやう
せんがうくやうれりふとくゆうりやま
おぬひくすれどもあきよきんーとくまわを深二
住ひりまくばくぬくれとまざんしとトされ
まほ本尊うおまくわるまひととくくとくとく
ゆくみせりせよともはゑうすとよざんもとさん
ニいじてとのをせひなうへとまあいふせん
所ひくまとまんあくめりんしとくとくおやせ

つあてたもつまでうせらうをくひやまとく
それどれもきんしーばとされうりうくまあくと判費
やさくあくをくらんとてりてひらめよだう
さくあく乃ほまのやうに數たうりりたりたり
かうのゆのこのこあまきうりれやうりりばり
て九みとくまつうてをくまそなうちたばまれてや
おうとくれどもくあまきうりれやうりりばり
ゆうゆうあめうりとちうとくれとれせうそと
ひりんきんえくらとちうとくれとれせうそと
所のてまくらせれのこつうれをうらんとほ
うきされをうらくアトうゆくとくとくくらむと

もたぬもまよひてゆく事
をゆうたまざりてひらんと下けまくちられへばき
よきがせられければきくらの次らすやひとももく
ともねぐをうひまつせくく人やもすまくそ
まのとくとくをあきえひめすあの方をま
りうる事へくくひつまやややや
うそえひゆくくはりくらむりきよからく
きくらのやとくじあられりくまくら失たゆゑのほ
いはくしてあよゆとづいてもゆくしてゆく
おひこへ三席まいりまうくまんをわらひせんの
うまととよなひて十一月三日不^トもやこといてゆ
ぎつゆの國へかげめなれもれにくろをまくも

あやうよそせんきりつうじわよりてなげ
いえせんじーうひとめお月をせりふら
せりふらしやうそくせうれてそのへりをれりくわ
おをあうちのふくまればひづれきす
よくうれ馬のぬくくくあえうれのあくまで
ちくひくふちろかくまんかくひてそむくほ
くろくわせよくくまくろふしきすまくわ
見るのくくわきてめりくう老ぬ十隊もすまくわ
よみひふのけりけりしきくう老ぬせれけけ
色ううれきくもくもうちこみすくらふニ
百まうちらりの上うれさい一万五千軍隊りうまい
ふまくもくつまぬせりふ大和よヌ百人れせじとくわ

乃せてまほほう所つみせえひまほじまでとく四國
海とあらますゆめりかうとく人のまく井も
うきそれいととのめ下のぬきしろとやまひまむ
またよりうね入えしくのあのものみくはまくまく
もの正ぬみのううけてあくとをなまくしよ
一ぬちとうせりあううかよをまくしりうとみるよ
てあくとをまきわえスリキめ代なくともりてまされ
とれふとがりひるうとおきうせあ不ふそくうひて
せく種イカササギをまくすとくせきとみきい
あハラやあくせうりくたのもりとすそうな
りこれどまじとあまきまとあくちのせくせちうくか
れき一ぬうへそとくよがりてこきゆく種ふもくれ

のひまくと見落人する山乃まくよかとあくとよね
乃中とえとれとあくあのふきよの國乃りくの山
うとヤケキくうんちやううれくふか山よせとよ
りうくとえとけとく人も月むくとくをふなと
ぬくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
もとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
みとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
もやなや下りれとくとくとくとくとくとくとくと
さ山のあひとくとくとくとくとくとくとくとくと
色とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
大風とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと

りうへうけあうううやもかのとくせうきて人乃食
とくまきよやうそをせられりう想んりへヤトテ
をあのくみのあいさとみくひうすも聞くもよとく
はげきをりハほとよびののわとまのひて
ひうゑじあとせあテ般若ひときわへあのまんたち
れりくふえのうとすうとほ成しゆめこりれそく
わ称とうのみあひしと經理がざれひひ事を
り下の聲うようううんともハキル乃まやりぬ
ま人もくふくもひてぬりそくうんねんばんしん
をゆうぞくへいひしりうきぬそもく人あまを君
乃くためあくぬくとくねくわくくあれをもくあて
ほぬ称よくらむきのうらせゆふまくわくも

二とひこまうへう色うん事ぬうやうなうらをア
リうとうくましこれれえあうて月ふうまう事
うんをあううれりうんけひやううをまうを
あひく興きひうやううと西からひつてう
西こうくまくもゆくさひもくらんうんすうもひもく
えもくまくまくひくこうてたらがまくまをもたらう
うりもく八ノうくねれもまくまくやよエうえ
のゆもくまくそくをうれよつてうくうくやよエうえ
どりふやうよつをくじてヤ一やううもんせ代比
おみたにやおれほよもんびとんすうり四十一と
八みしゆひまやうりんをくらうとまやうとの合戰よ
うのをあきらうやうとよもんせりれハ吉房さう

「うふんもうすこり十ヌケといひひぬばあを語り
それうちのうちもたえてひき一々なりちと見てそそん
しはらうとうれかへお騒がけのようのじく
もゆもやうて人數よいづれにまき風雲乃のことをわ
るをいしんするほどようときわなうもつうとこえ
う方しつのまつてくまそあうひをうけの志
まやううくはよきをうらしきれうあうなくを
うううううせまうほとけとだつとみまううきてつれ
うううううううううううううううううううううう
うううううううううううううううううううううう
うううううううううううううううううううううう
うううううううううううううううううううううう
うううううううううううううううううううううう

「んくふいたりあれくぬゆひうれゆふ旦あつて
の事るねどり一がとくわまてがのうひいづく
小あらげくとくかくゆとむやうりあらじうき
あすやうすうせふうり

みのりかくすをあきらめくのうねうねやひの陽
なみがうきも大事。お氣はうそやめり、おせや
まのうとくとあくねよもうちのふうし。ぬりひ
とひとつふくゆくねりうれいの山へまくみやよ
えくろくとくわやまんかやうなりうりとさうう
くまんあきせりうふとせうとせうとせう
とくうとくわとヤモリと森と大風れちまくじを
ナ一月上と西へんばす。なれものうきまつてゆう
とくとくあめのいうとくえわのとぬりとよをうセモリ
とくのうふびこやア。わろーー。はぐくわくううき
つひていくとくモタクをだりううくまんうん
ああとふかうとくううきの川まくすとまくす



おひげよやせやせられどもがとれわざんとすれせ
のせうめきてせみやうつまうてさうすよむんもい
ゆ一ゆうよアリリハシムあくべうせんのゆ
く大りせすのひーそりつはてとくけてひ
せよやぬとまきてうひよとトらもひきくの
せま河つあくねとあくもまくな河つを
時うひあくゆのりたわくらひきだくられ
をうつとあうてがくとゆひひくけれもを
山ふもくもえこくもあひくひくて上不
せくほと八太うせうあくけくねりとくく
八をくくわゆくろれひくとくとくさあふくわ
くまきくまでもくわゆくわがくへる人ゆがくとく

ひきぬいて煮りとほくとうづきうちれあまきとほらん
とだらわのやとやぬつて風とよばをとてなひよ
とと内とがの中成さんとよをぬつてうせとと波
せやも色えれよももももももせん乃がみ波けく
のとくさうほとくはむすくれねえれやもぬねうゆ
るもつてまちもすのをあとよひねびふねをあと
かくやもみえうりうりうらをくきもひたきて三
のほもええとくらやうやのをうまうひけり
せあてやうめひうち乃はおなうそいりくらんもやこ
うおなうまいりつ町人とまきをかうけめんうて
おなうあうととのとおひてかうひのひうちのせもうせ
四人ともましましうれりうりやもゆめううくぬう

とて車大納言の所ひとめ太郎よりあまき
乃大納言とひにかあら乃ほしとめ
はんとみかがさすつゆゆ月りゆ事までそわく
りうきあかりうき月うかととけめくとひやう
ス人をうして十一人一つふねよみかね
てをみかあらくよれを一とよみゆ
けくひ月のくねよとやもくやまびらゆりと
ものをとく。又へぬひづりもくくもくもあ
きたたちつてせひてこよひもせんとくもく
らんのくとせんとくもくもくもくもくもく
やせもあつれとくとて夜乃わきよ。書と一見
てせよもく小もくじゆとくわくとくもくもく

くまうひれゆ やもとをりやひらりうよひへもやうの
きみやあかあひやもしうふ下てないよまてせみ
めびり伏ふきうそゆ下とけふせんきいんをうん
のきもせうりはわねまきにうおんをぬく乃けりを
えりあうといぬやさりうもくすくんそれをうれらひ
ほづんとの不きといもくうほきやひき乃山そぢち
れえまでかきうひくらうをあふるみのまつあ
までかきうひくらうをあふるみのまつあ
きうなまつありせのこゑをうつあひきのみ四席共房
をあよ／＼八席なりゆくゆうひたちの國り／＼あ
なめゆ／＼やうふあ／＼ううううううう老けりやそ
の三席せんしやうむたまふ鶴うりあらりうれもほの

よゆまてあうひりよしづんをへれかまひも
ありひととよゆよもうちもともいとくをもくとせん
せんじるトトクろがゆつたかきやゆくわくせん
みて岸くゆあとだちてこ神ひくれぬえふつれ二
をちよとてとうよまきぐくとまくつゝとせん
きくふりひそひゆゆくやいものないりまくつてた
けすふり大せひ乃やくばつきよまけてけらすせよ
のりりまとうけでえけわく大がゆくめのめもきて
たくふりしももねほくらをしられよまくせん
わくもあづらとほくほくりむこよそりおぐを
わくすけめられてゆきやくとよぬまてこやりく
まんもくとのをくまよそれりくわまくとのがれ

つまむとおもひてあを
ひきりこおふせらうとそへうまであひとおも
し力かりあつきをすらうとおらん二三度たり
うのうらとすく力かりり二度やうほくのうり
あつまてねく行きてまゆととよねのうちおこたる
て比うか力やううなうてえあくうりあつやうふく
うんとまく力ふもぬうよりたちくう開れおく
れすうれでえれえくやうんうう
うせのううをみ所よくよのせがをうせよせつひ
えりそざりあいふきりとくう
れふもまたうをうつみてえめうもううる
うりうくとおもす二度うものう

れどぬ林ノうちよ向むかは小見つをおめきりうへけ
うもせみ乃りとモニ二ふたあうもうつときてぬはとと
きおたりもとくうみおりまわらくぬねへうえきれよ
つともせめひけうにこれうすりまをわうてぬふもと
とぬまんなひよとハの川がふひくうりそくぬく
ばらうらとあまぞれきくうけうらとめせすのをく
よももくううみよゆられううううう道小うつまうす
まれゆんげじあきせりくくもきぬふくらかせやしん
とりくをみ十月うつとなううんとうまかく是も又まのふ
乃風よとゆきとゆくゆうゆうりうをあひむやこくく
みくヤセミうふをまうみうせふがううとうせうう

だらえうみふえうすうあうううん風下をほのぬうすや
あううんとヤキモ判發所下うれうるも店舗てんぱたち
もあんない頃ううぬのなりうきうもあんないや
なれうくやとひきうわうせようてやりのけうと
うそくをうとひえてもあくうきわうつみうううううう
ううめひうこふほゆのとくせきうへたうりあ不そみのう
うひくうひくううせきうへたうりあ不そみのう
うそふれううううううたくうせておのめくうとまら
うくうくうのううふ大うねのううくうすくうれ判發
しれうううううううううううううううううううう
そ詰のあうかぬ林よひりてゆまでとくうとゆうとくう
きうううううううううううううううううううううう

りくもひすりとよきよやうのあとうゆうしまれび
ゆうゆみてよとあやされりるゆくうのゆめたり
のはくまきとあてたちもうつもひてくいきやうのゆめ
めりひらぐれりゆめゆのまくういなくいうす
せうつけてあらうてみきもあまの三ややくせまをハ
乃見どりくわらひくゆうもうて同りやに思ひされ
とそわくわやあらうちとけゆもゆゆや乃ゆ人をお
まき一町けりつまうつまうそれもえりうとうり升あら
とくぬすうつみてゆみて見きをゆううおとひりひ
あくせくらむきりゆくれの逃付くおつこまきをよも
ひハをあんよけたる老人只一人とすとふうり



あきそゝの國乃りつゝのまゝあとどひづれをす
小まよよそつゝへ事みよまよふゝやうれ
わぬちふけどりも二三日ゆうごすう事乃ゑ
すもうくまし乃きのふ是を出で四國へとそくち
ゆひうねのまゝゆりもまちほうもそつまのよ
うんとてあふれ近人よ鷹ハ巣人上野のもんくもんこ
みそのを尋ねてくつふよ直ひま乃名馬よくうひも
だきていそま三十すう乃もまゆのうじうひたてと
つきまうくまんとまらうけうそもうれひこまぬ
ば人なまきうき一まうぢらてひつき落人とゆくせ
られあむくわれりされうさらぬてひまてうりうをあきそ
あきそくふのまれまといゆおとひたけりよまく

まゝて大國乃れそれでくつゝとれおつみては
きりじりのまよもせえとやあくに古あくを
さひーひひう

いさりせんじれひくまかのみよ

お金八百千不ふくやうう

やゑうてつまけとやうう房ようりのちふき
あわくまとくへぬおとつもひまくじくわ
ありみとほきたまひりるをねりりうか一あう
車くつをまめうてけりやうれしきてもぬゆく
せせやうとくれともとひらまはね
せせりしてあくわなまをあくわせり
すまう大おニケふくらせん乃事

とくよくうりむり人とと角どりもせよと大ねばうへよ
もゆくとくとすひよをとえぬゆのわのわのうちよつま
てこよととよきすこれうあやしめれりふふみよと
あよひよきてみんとて三百金萬三十そう乃姫神よ
うの里所し出をとひなれせせうせんばりあ
さめうく川をやうひづんじうを八せらうとゆふやう
すこえうけとおせひとかうとこめもらきとふと
そのへあうううもうくもんほうんとてきうすくめ
をとくみゆくへあうなうほゆうぬねと見もゆう
なくすむちのゆうしらうをよせじをびしやう一圓れ
うのそゑだりふくまよほめうらると大さやうとせう
一いもん度の所よもと小せよとそのまひりうま雲

陽うりうもせやととさう事よとくせぬりうら
のりくとも大事へんのうてゆ今日れまめとせきよ
乃人のそみあふをうすゆんきいはりとや
うれいとゆうをはれくて傍うう乃うよをひえん
乃人とゆふうひけうん乃考とみうひく「ううう
とくや」をりくとたふり人と云ゆん乃記五
をいこうのまくへつひゆうや一川いしんくそや
けうんけいゆきとゆくはきよりからと山とくの山
うちうゆくやとくものをがまうととせりゆきとく
四席共湯これと空てゆあううつこまうてやけうを
うくかうすくうほせう人の人をうそれうけうん
すうゆふてまそらのいきぬめりれやせせふみう

てたてのふうれとゆきまくらひもややか一のまきを
まうくもい一トヤマの老つのそめーとだりひ
ほうとわかとそやつてこのふすまれのけいお
もてものしきせゆつれをきくとまえおと
よろへる二まいふみとこあめつまほくの
だらまきのうをむうへやせゆゆうとうとくに
つふれひがてうもやう人のうづ二つりをま
うるぬまきのちりてをさまでうちりとまつて
わひらとしめんくもあつうあめもんく
あやうなーやうくじうてうひうく小ねは
ときめりてやもふこまよきてやけうそうをく
はぬれをまうくんとくのほぬれとくとく

くやへき鷺れくすんちやせつうつあのもんく
よくみのよてひつとくせのくはげひくとくも
スウタなくおち人のつせひひくともらーま
せひりるすゆとやのちとよくまてひくうすく
まきてひせやーあまくまくらひやうふくのふと
そくはうとりひもりと毛のせせたらあつれてーま
きしわひひりとくとくくもんを自ぬくひ
とくたれようとうらもくとくひくとひやうせ
れりわくをくばきりしてぬかとくよとくとく四
ひやうをとみくとくかくとくとくひやうせ
けりとゆつせいらがわくとくおもろされく乃
ふほくわくとくのうとくとくけをやうせらうく

とくとくおもておもてあまといはるへとそ三人をよよ十三
うへこつうけとうてけうひよくひまとひやうとりふ
くふらもどめりて大うふようへうてうれうちりふ
せうへとみくひ乃わ称とうけをぬうせいち
えうてうまきそりちうけうだらくひきりゆく乃
もちよつ禮てうみへなよとそりうけうほきの
そくくんあきとくさかいじせととせねうらうを
てえひの力がのりとくとくひいてひやうとりう
くのふうやあしとくとくひいてひやうとりう
よのむらとつけほりてうふらそうえんへたうぬ
きくくちたいげふのほんとくまいろやうとくとく
さううるなつすてれゑのほとくわせんとくとく

おさしもけてこひまふれてまうてえ一乃やいえ
してれんもむけよだりへばて二れやとくとてけう
ひつらあくうとくとくのひまてりやうせいれらま
れゑれへそとくとくとれゑゑふみもんはうといかを
とかもうちうえをよとへあくのふつみのをとくとあ
なううへあくとくとくとくとくとくとくとくとくと
さくれひまうとくとて一ノ筆とくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
のりうよ四あおゆとおゆくとくあえのあだりうこれ
りくをまかとやうをうけうまうまそひくだけれどの
またまくらうまつゆももや一いりとくみんざりひ

まをあきとそのまようりのせゆうもろまひのまき
よれとくじのうちひあくまきとふとこまきとく
わうきゆよゑ津うりしてあくまかゆとくま
そさみやひく一こうせういのよつとときてぬた
所うみてかあくわくかまきためてゆへんうとつき
とうあてとくまきとふとまきとくわたりちのとくろ
けやいよあくわくうとめらるをばとまきとく
まきとじくあらきとほのまきとく成ス六をしんと
つまうちりうねとわまきとれはとくまきとく
うちひのううくぬせりとまきとく圓れかとまきとく
かとくすなむ大せりとこみれりてねあとさりと
たまうまきとくまきとくうとくりてやめうりと
いきまき

ひやうとくまきとほのととくまきれやうう
わんすくわみのめ静ようもくとくわめくとて等
うせんとすくのばまきとくもせいひやうこ
のやうとくまきとくとくまきとくやよいてくれと
そとくはまのせあとやううこおうせうひん
かゆくまきとくとくとくとくとくとくとくとく
いきまき

ぬなり。すういち升の本とアリ十四又いづくをさ
うちてかみ一もとへありてふためきてかとや。自
乃ゆへよてまきぬ林ニそりてう勞ふたりて。ぬハ
くもしやうせふあくと大ねのうう。よ林西二ま
よきてひがりきうたとくとてなくくともゆくよよ
をそりとくらじり。もとひらちるうとくひてや
りうとやどくぬ事のひくもとをくもとけくもの
とひくてはとくとくとん事とたくのふうりつと
よとじなとくとくかとくとくあきとくとくくとく
とくわかこえうれをかと大ねよりくとくとくと
百孫八勝とて大ものうらう。とせくとくとくと
あきうりぬとくとくとくとくとくとくとくとくとく



おまけで此處に止むと申すとあきらめきを無事も
うろこをやうじもくわりあしやのまほ
まこうひたちもうをりともまくのきやうば
さりあひせうせんよもうめりひゆ
ゆとまもたさううせうせん
わううのたちもみていてもくは
りためやうゆそりまくまでふみ
うひつむくもひきておどものさすおけふみ
モリちぬ八木代玉乃一ちやう二
くはくあせくうへすひまきとくよりつ
たまとヨリエモさみくこのれのをさん
やうもなふすけぬ称とあれば中止すとこが入

よどかにまくまでねみてるからぬれもとひらの
すらまやひまよきくわやめりうわふみまち
ゆきてれけりいはさみやめや孫なまうらす
まんくようだんすろ道ふよとみのもちだふもとま
やめやうりらもなぐれまたたれまたらめてまみとえ
よとつぬやえととよとやくちんがれやうよとれ
しづこみやくを自成を下してあきらみるこみそ
のたがりもとくこれほとの大せいかゆふ
き二人のうちよか老をすかまのうてうらんと
りくをもうとれあきとれて一人もひゆ一陽一人も
ひくらもうとくのうこみでられとくくされなを
まよひたまうおうとてねばちりうむけえ

れぬけのへとて、おもてにあきてきた所のあみ
のみたるをもみまきせ——りもせよやうひされせ
ぢくとづきをひき入りとあやうじうそせりひされ
をぬかととふまんで、めーとそこまたりけ
スそく乃まんかーをすらまやこきへあらくまて
やがりうつりともうとあらじよしきて、まふうち
ひとめ、口てひまつあてそくはまげくまふあ
老やアヌをよりすわぬ老もねあくをあくを
うえへひづくうせようり判事うれとゑのひて
ゆうゆうあまきをいせよさのとくみあけくまうと
きれくわくやううそしひさのえしにみあけくまうと

うよすゑりとくらぬあとさうもんほらやうをひくふ
きつまそ八方とせあよそそんくよせびもときね二
そくへう劣てこそうあたすうつと大ねのうゑをみけ
あう玉ううれにえうくらううくらううくらう
絶ひうり汚ぬのうちやまとておふの十六人死ゆ
を八人うきりうちくらう者とてえふくくいとくき
しやういもう力ださうとおめうるも匂をひくま
まくねけくしだまくうれうりうけまくんくみれ
くうよあけだそまくうううのうあくうううう
れくうううううううううううううううううう
えくうううううううううううううううううう

乃はうのアドモつてわくはなであつた久松大弓と
のくもあきをとまふんだのれくはなとまづくはれ
やうのこま比人ヒトをみふくらしくつあてそとく
玉まみひうるがくよのあくらさとみわゆ
やおもづれりんまいた下ひくちいものうとまち
えまひてまくふほせせてあくきをすとれりん
めりりりのれとつまたまひて一束イヌとあ
絆ハタチひてや下シタとあくふうこやうふーの押ハタフさ
えうつれ浮ハラフひてりやくうほきては観人の
ゆとふもしだくらうりほうてうかの四角シヤクと見ミと
りうりせめ國クニとあしてうをよすとまえけまを
生きゆ人ヒトと大事オシとありしとち元年

ヤ二月廿四日の午前九時半より
すゞしけるをもれ乃ぬ山とみと見ゆ
まもらひり

出石

八木町

武田喜平治

所有

